



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く10時～16時
 Web URL： <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス： ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

農繁期の谷戸は、人手がいっぱい！



写真 6/9 田植え

少雨かと思うと、梅雨本番がぶり返したり、気温の変化に一喜一憂しているうちにも、いよいよ暑い夏到来の兆しです。

谷戸で作業する私たちボランティアを上回る草木の勢いです。わずかの時間でも草刈り、草取りにご協力いただけたらうれしいです。

今年は、園内の梅の手作りジュースのほかに、大麦の収穫が成功したので、炒りたての香ばしい麦茶を味わうことができますよ。

山崎の夏まつりに参加
7月 日(日)開催
 地元の伝統的なお祭りです。当会からは毎年、御輿の屋根の上の風(おおとり)にくわえさせる稲の提供と、御輿の担ぎ手として参加しています。

もくじ

☆各班からのお知らせ→2・3p ☆谷戸の自然だより→4p

☆谷戸往来→p5 ☆谷戸の体験学習→6・7p ☆7～9月の日程表(裏表紙)

各班からのお知らせ



田んぼ班 ★7/7(日)、21(日)、28(日) 田の草取り ★14(日)田の草取り・苗床片付け



6/9 田植え

水不足、苗不足の中、たくさんの方々の活躍で、6月17日ようやく田植えが終わりました。苗床で弱々しく見えた苗も1週間もすると元気になるから不思議です。田んぼの力はすごい！これからは、ひたすら田んぼの泥をかき混ぜながら歩き回り、アオミドロ・アカウキクサ・コナギとの戦いですが、田んぼの中はひんやりと気持ちよく、いろいろな生きものとの出会いの場になります。



畑班

★7/7(日)ごまの種蒔き ★14(日)さといもの手入れ ★21(日) 小豆の種蒔き
★28(日) 落花生の草取り・草刈り

畑の5月6月は春野菜の収穫と夏野菜の植付けで大忙しですが、今年も多くの方が参加してくださり、無事に終わることができました。雨の少ないうちに、小麦の収穫と脱穀が一気にできました。その後のまとまった雨で作物が元気を取り戻しました。今年も落花生の黄色や、ごまの淡いピンクや、そばの白い花に会えるでしょうか。暑い季節に自然のエアコンの効いた谷戸の畑で気持ちよく汗を流すのは、とても贅沢なことかもしれませんね。



6/23 さつまいも畑の草取り



雑木林管理班

★7/14(日)草刈りして堆肥を作る 8/4(日)草刈りして水路整備
8/25(日)雑木林の下草刈り



5/26 土手の手入れ

炎天下の草刈りの季節がやってきました。刈ってしまうと残った根から2倍に増えるセイタカアワダチソウの抜き取り、カナムグラなどのつる植物の刈り取りは、根気のいる作業です。草刈り以外では、畑班と協力してお茶の木を増やそうと、お茶の挿し木に取り組みました。3年程苗木を育て、移植する予定です。



農芸班

★7/24(水) 梅干し作り(赤ジソ仕込み)
★8/7(水) 梅の天日干し

「梅干し作りを始めたら3年は続けないといけない」という言われがあります。初めて挑戦した年は上手にできたと感じますが、失敗は2年目にやってくる…2年目以降の少しの慣れや勘は梅仕事では通用しないのかもしれません。最初の年と同じ気持ちで3回梅干し作りをして、ちゃんと漬け方を覚えましょうと先人が残してくれた大切な言葉です。



6/7 梅干し作り



自然遊び班

5/12 (日)「こども里山一日体験」では、5月の風が気持ちよくなびく中、遊び名人のおじさんと一緒に竹笛や竹馬を作りました。太さの違う竹がいろいろな遊び道具になってゆく様を、子どもたちは夢中になって見ていました。



5/12 昔あそび

☆夏休み特別イベント☆

子どもお泊り里山体験 (対象4~6年生)

7月28日(日) 13時半 ~29日(月) 10時

農作業、木の伐採、かまどで炊飯など、昔ながらの暮らしの体験です。

詳細は「広報かまくら」7月1日号に掲載します。
(公財)鎌倉市公園協会にて申込受付を行います。

★9/15(日)こども里山一日体験「藍の生葉染め」

自然遊び班の畑で育てた藍の葉を使って絹布に染めます。小さな子どもも楽しく簡単に染められます。藍の葉がどのような色に染まるのか、お楽しみに。



生態系保全班

★7/6、20(土) 夜の自然観察会

★22(月) 夏の昆虫観察

冬に産まれたアカガエルのオタマジャクシもなんとか小さなカエルになり、畔や広場ではねている姿を見かけるようになりました。コマチグモがアシなどのイネ科の葉を巻いてつくった巣も目立つようになりました。シロテンハナムグリを見つけました。以前は当たり前に見られたコガネムシですが、最近見ていないような気がして思わず写真をとりました。夏に向けてたくさんの生きものが姿を現します。



シロテンハナムグリ

～参加者の声～ トンボの産卵のために苦労して水路をつくるなど過保護だ！ 荻や葦原のために藤や葛の根を除去するのも無駄骨だ！ そうかもしれない。無駄なことをやってると思われても、疲労困憊を厭わず、黙々とやっているのが生態系保全班です。そんなとき、万感を込めて自然保護を訴えたエッセイスト荒垣秀雄の名著『国栄えて山河ほろぶ—ふるさとの自然誌』(1978年)を、70歳近くになってもいつも思い出す。自然に対する人間のあり方について最も影響を与えたのは後にも先にもこの一冊の本でした。

谷戸の自然を大切にすることに価値を見つけたのも、そしてそこに自分の居場所を見つけたのもこの本の影響だと思う。残念ながら、老齢になってからその域に達したのが悲しい事ですが。(宇佐美雅章)



植物育成班

★7/1(月) 野草生育地の手入れ★8(月) 田の植物観察



6/12 クズの除去作業

今年もクズの除去を始めました。ツルがほかのものに巻き付き、駆逐するからです。ツルを切ってもすぐに生えてくるため、地面に隠れている塊根から切るようにしました。結果が出るのは先になりそうですが、ツリフネソウやミゾソバの芽をあまり傷つけることなく作業ができたのではないかと思います。これからも引き続き行いたいと思っています。

また、田んぼでは神奈川県レッドデータにもものっているミズオオバコが7月下旬には開花するなど夏の野草が楽しめます。

谷戸の自然だより

～里山（雑木林）が荒れるとは？ その2～ 前号の続き・・・

⑤昔、斜面が崩れて土が堆積した場所に生えるミズキの林

谷戸の斜面をよく見ると、所々に小さく凹んだ斜面があり、かなり昔に崖崩れがあった跡と思われます。このような所にはミズキやアカメガシワなど昔はなかった落葉樹が数本かたまって生えており、新しいタイプの林ができ始めています。木の種類が増えることは野鳥や昆虫によいかもしれませんが、放置すれば木が倒れて斜面が崩れやすくなるなど問題も抱えています。このような林は専門家の研究もなく、どう評価するか、鎌倉市の自然環境調査でも結論が出ませんでした。急傾斜地では伐採して、ケヤキ、ムク、モミジ（イロハカエデ）など倒れにくい樹種を植林していく必要があると感じます。

⑥近年、斜面が崩れて半ば岩盤が露出している場所に生えるキブシやハコネウツギの林

ししいしや田んぼ周辺に数か所あります。放置していても、いずれ④ケヤキ・モミジ林に移行すると予想されますが、⑤のように倒れやすい木が生えてくることもあります。再び斜面の崩壊を引き起こす可能性があるため、手入れが必要です。天園ハイキングコースで、大規模に崩壊した跡地がクズの大群落になっている場所などは森林に再生していくのかよくわかりません。

⑦最近、木を伐採した跡地に生えるカラスザンショウの林

小段谷戸の斜面など、最近伐採した跡地に見られます。日当たりがよくなるとカラスザンショウやハゼ、アカメガシワ、ミズキなどがすぐに生えてきます。このような樹木は野鳥や昆虫のために役立つので、歓迎したいところですが、斜面の崩壊を引き起こす原因になるので、将来を考えると、放置せず適度な手入れが必要でしょう。

⑧荒れた植林地 スギ、ヒノキの林

ヒノキは岩を抱えるように根が張るので尾根に、スギは根が真直ぐ伸びるので、土壌が厚い斜面下部に植えるそうですが、鎌倉の場合、混在して植えられていることが多く、急斜面に植えられたスギが倒れて問題を起こしています。将来倒れそうなスギはあらかじめ伐採した方がよいと感じます。

また、スギ林の下草は、アオキやイヌビワなど低木が目立つ場所、シダが多い場所、ヤブミヨウガが密生している所など、さまざまな状況が観察されます。これらは下草刈りの仕方によって変わってくると思われそうですが、クロジなど貴重な鳥類の生息地になっている場合もあるので、単純に下草刈りをすればよいわけではありません。まずスギ林の中の倒木等を整理することが必要と思われる。

次号につづく・・・。

谷戸の裏方⑥ ～ 倉庫 ～

農作業をするのに、物置は欠かせません。農家では立派な物置が庭に鎮座しているものです。農林作業を班活動の主軸にする当会では、発足当時から道具の収納場所を市に要望していました。実現したのは、公園の備蓄倉庫を使用するというもの。当然ながら、7つの班活動を十分行うには狭すぎます。地元農家の方から譲り受けた大切な道具とともに、工具類から保存食物まで、多種多様なものが所狭しと収納され、収穫したものを一時保管していることもあります。農繁期はとくに作業する人の出入りが多く、片付けをしつかりしないと、探し物だけで貴重な時間が費やされてしまいます。毎日何回もシャッターを開け閉めする手間もかなりなものです。それでも大事な物置として、会員さんたちの創意工夫で手入れされ、活躍しています。



谷戸種菜 谷戸種菜 谷戸種菜

報告「南三陸町アジサイの苑プロジェクト」に参加 5/17(金)~19(日)

今年度2回目の東日本大震災被災地支援ボランティアバスに参加してきました。鎌倉のアジサイを南三陸町の^{だいおうじ}大雄寺に移植し、3年かけてアジサイの苑を創出しようという企画です。主催は鎌倉市社会福祉協議会で、鎌倉風致保存会と鎌倉市公園協会が協力。市内の寺や個人から寄付されたアジサイを、鎌倉中央公園内で職員が世話をしました。ツアーでは公園協会の常務理事に同行し、今回の活動の意義を確認し合いました。(理事長 相川明子)



6/23 なかよし会

通常総会が無事に終了 6/2(日)

総会が無事に終了しました。多くの仲間が集い、老若男女での保全活動の意義を確認し合いました。

青空自主保育3団体による湿地復元

山崎の谷戸を子どもたちの主なフィールドにしている3団体が、家族総出で力仕事に活躍しました。『やんちゃお』(4~6歳児)は6/1に農家風休憩舎裏の湿地を、『にこにこ会』(1~3歳児)は5/19にししいし前を、『なかよし会』(1~3歳児)は6/23に本田奥のため池を湿地復元しました。

【感想】★徐々に作業が進んでドロドロになってきた場所が、テレビで見た蓮根の収穫みたいになって、そこで胸まで浸かって頑張る(兄弟の)小学生やお母さんたちには本当になかなわない!と思いました。(やんちゃお 松本哲郎)★草ぼうぼうだったところがお父さん達の作業であつという間に湿地になり、水路までできました。どろんこになって働く姿が、子ども達の心に強く焼き付いたと思います。(にこにこ会 三浦亜希子)★水面上のアシを切り払う達成感とまだ手付かずの根っこ。時折ザリガニや珍しい蜘蛛に歓声。概ね黙々と進む作業。水面が広がってくると、水の流れに気がつきます。トンボが様子を見に飛んできます。根っこを取り去りはじめた辺りでは、膝までだった水深が股下まで到達します。泥が跳ねて目に入るととても染みます。(なかよし会 箕浦信夫)

新企画「里山探検隊」がスタート! 5/19(日)

第1回目の里山探検隊は「さつまいもの苗植え」でした。緊張の中で自己紹介した後、苗を切り取り、説明を聞いて、畑に植えました。その後、探検気分、冬に行く紙漉きの原料となる木に目印をつけながら谷戸を歩きました。スケッチブックには、それぞれが見た谷戸の絵が描かれていました。



2学期の募集について(1回参加も可能)

・9月8日(日)「秋の虫観察」 ・10月27日(日)「さつまいもの収穫」

追加募集:小学生10名 受付:7/1(月)から電話かメールで。先着順、定員になり次第締め切ります。